リサーチユニット名称	東南アジア環境健康研究ユニット Research Unit for Environmental and Health Studies in Southeast Asia

組 織

氏名	部局・職	主な研究テーマ
（代表者） 渡辺　幸三	理工学研究科（工学系）・教授	天敵を使って農業害虫駆除をする生物学的防除技術の開発，蚊へのデングウイルス感染を抑制する細菌技術の開発
（構成員） 日向　博文	理工学研究科（工学系）・教授	都市から沿岸域に流出するマイクロプラスチックの動態評価
鈴木　聡	沿岸環境科学研究センター・教授	農地～排水～海にいたる水環境中の薬剤耐性菌の動態評価
岩田　久人	沿岸環境科学研究センター・教授	野生動物のオミックス解析による化学汚染物質の毒性影響の評価
上谷　浩一	農学研究科・准教授	農業が熱帯雨林の遺伝的多様性に及ぼす影響評価，アグロフォレストリーによる農業害虫を抑制する技術開発
計　５名		

〔認定時公表〕

リサーチユニット名称	東南アジア環境健康研究ユニット
代　表　者　氏　名	渡辺　幸三

〔設置目的〕

経済発展や人口増加が急速に進む東南アジア諸国では，過度な農薬の使用，蚊制御のために散布される殺虫剤，マイクロプラスチック汚染等の化学汚染による環境負荷が高まっている。環境負荷の人間環境や自然生態系への影響が懸念されているが，その影響評価や対応技術の開発に必要な研究は大幅に遅れている。本リサーチユニット（RU）の設置目的は，「東南アジア」「環境」「健康」をキーワードとする海外フィールド研究に強い学内の研究グループを集約して，東南アジアの環境健康問題を解決する拠点を形成して研究機能を強化することである。本RUは，１）影響評価部門と２）対策技術部門の２部門から構成される。

これら２部門は，１）環境負荷が人間健康や自然生態系に及ぼす影響評価と２）その環境負荷を緩和する生物学的防除（Biological Control）技術開発をそれぞれ担当する。

〔活動計画概要（概要をポンチ絵を用いて示した上で，簡潔に記載すること）〕

本RUの活動の柱は，１）国際共同研究の実施，２）海外サテライトオフィスの設置，３）大型外部資金の獲得，４）留学生受け入れと人材育成，５）国際シンポジウム開催の５つである。RU終了後には，サテライトオフィスを国際共同研究センターに発展させて，研究拠点としての機能を強化する。